

思
い
出
す
人
々



西山 厚 全24回

第11回 【明恵上人】

みょうえ

明恵上人の奇妙な歌を知ったのは高校生の時だった。

あかあかやあかあかあかあかやあかあかや

あかあかあかあかやあかあかや月

あかあかは月が光り輝いている様。明恵上人は月が好きだった。

それにしてもおかしな歌。耳を切ったり、島に手紙を書いたり、明恵つて変な人だと最初は思った。

その明恵上人のことを調べるようになって、今の私がある。人生、一寸先は、闇か光か。この歌のよさがわかったのは、かなり時間が経ってからだった。

昭和43年（1968）、日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成は、「美しい日本の私」と題する記念講演のなかでこの歌を紹介したが、大きな誤りを犯してしまふ。

あかあかやあかあかあかあかやあかあかや

あかやあかあかあかあかあかあかや月

似て非なる歌。これでは零点。明恵上人の歌が素晴らしいのは作為がないからだ。川端康成は作為のなさに耐え切れず、無意識のうちに改変したのでらうか。